東愛知新聞　第3種郵便物認可

学童保育に私立保育園参入

ノウハウ生かし新趣向
園児との交流も

豊橋市内

小学生を預かる学童保育所といえば、豊橋市ではこれまで市立か、民間有志の運営が主体だったが、ここにきて私立保育園が参入を始めた。昨年四月の岩田保育園に次いで今年四月からは、市内牟呂町の明照保育園（中島章裕園長）が学童保育所（明照学童クラブ）を開設する。同園では単に児童を預かるだけでなく、保育園児との交流を織り込むなど、独自の学童保育を予定。保育のノウハウを生かした新しい学童保育として注目を集めそうだ。

今年度から始まった小学校完全週休二日制と、ここ数年地域内で急速に進展した核家族化から、開設を決めた。

保育日は日・祝日と年末年始を除く月～土曜日で、平日は放課後から午後七時、土曜日は午前八時～午後二時まで預かる。利用料は月額六千円（夏休みは七千～八千円）。

規定で保育園の施設を根拠施設にできないことから、園近くに建物を借りる。

クラブでは保育園経営のノウハウを生かし、新しいタイプの学童保育を展開する。

二人の指導員のうち一人には、同園で長い間保育士を務めていた五十代女性を充てる。ベテランの経験をもとに、子どもたちに打ち解けた雰囲気を提供するほか、子どもたちが何げなく訴える悩みにも対応してもらう。

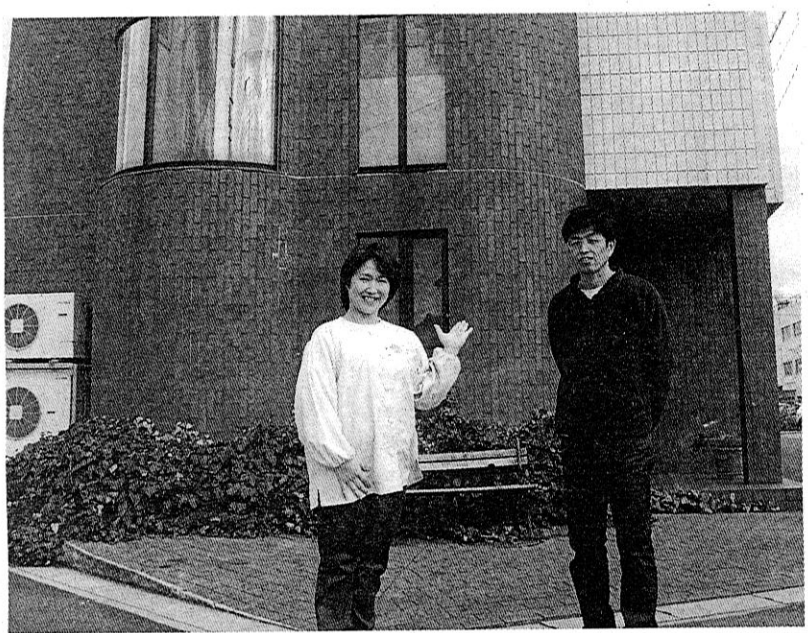
もう一つが、保育園児との交流で、学童保育の小学生には保育園の園庭などを開放し、保育園児と自由に遊んでもらう。

これら方針を園児保護者に伝えたところ、大きな賛同を得た。そのため、スタート時の保育定員は二十五人だが、すべて三月末に卒園する同園園児で埋まった。

同じ園の卒園者、しかも同じ年齢とあって、一種の閉ざされたサークルになる心配もあるが、①なじんだ保育園で遊べる②園児の幼少時から面倒をみてくれた保育士が身近にいる―などのメリットも大きい。

中島園長は「学童保育を単にカギっ子を預かるという側面からでなく、豊かな交流の促進という面からとらえたかった。今後、同じように保育園が運営に乗り出すケースも考えられるので、先達として頑張りたい」と理想に燃えている。

（高石昌良）



学童保育所に予定されている建物を前に
中島園長と中島美奈子主任＝豊橋市牟呂町で

安全運転PRに菜の花
渥美の児童ドライバーへ手紙も添え

渥美町の清田、和地両小学校の六年生らが十五日、それぞれ学校近くで「交通安全菜の花キャンペーン」を繰り広げた。心にゆとりを持って運転してもらおうと、メッセージを添えた菜の花の花束をドライバーに配り、安全運転を呼び掛けた。

和地小の六年生十九人は、満開の菜の花畑が広がる国道42号沿いで実施。校区交通安全推進協議会の父母や地域住民、田原署員らも参加した。

菜の花は地域ぐるみで育て、前日に刈り取った約二百五十束を用意。全校児童が交通安全への願いを込めて書いた手紙も添えた。この日は穏やかな日となり、伊良湖方面へ向かう車も多く、六年生たちは「安全運転をお願いします」と元気な声を掛けながら次々と花束を手渡した。一緒に手づくりの鉛筆もプレゼントした。

（中村晋也）

花を手渡し、安全運転を呼び掛ける
児童＝渥美町和地の国道42号沿いで

地域活動など高く評価
新城・八名小「マーチングバンド」
山本市長が感謝状贈る

新城市八名小学校の「マーチングバンド」（メンバー四十九人、顧問・河合喜子教諭）に、このほど同市が感謝状を贈った。地域での積極的な活動や、各種市行事への協力を高く評価。今回、改めて表彰した。

八名小マーチングバンドは、一九七八年に正式発足し、以来、全国大会に三回出場するなど"実力校"としてその名をはせている。

また一方で、九六年から市成人式に出演しているほか、交通安全パレードや市制四十周年記念式典などにも参加し、幅広く活躍・貢献している。

贈呈式は同開かれ、全校生徒の中、山本芳メンバーらに渡された。

山本市長は全国へすばらしさを発信しており。今後も頑張れ感謝の言葉を

山本市長から感謝状を受けるメンバー＝新城市八名

伊良湖ライナー来月から
500円の値下

豊鉄・JRバス共同運行の高速バス、「伊良湖ライナー号」（伊良湖岬・豊橋～東京駅）が三月一日から値下げする。新車導入に合わせて実施するもので、大人片道運賃は、伊良湖地区から五千六百円が五千百円、豊橋地区から五千円が四千五百円と五百円安くなる。

利用者増に対応豊橋鉄道（豊町、江間徹社更新に合わせ用する車両を一。

定員二十九人掛け）の現四十人（左右の新車に切り

輸送効率化